



## 在宅歯科医療連携室だより 令和4年 夏号

発行 福島県福島市仲間町 6-6  
福島県歯科医師会・在宅歯科医療連携室  
TEL 024-523-3268 FAX 024-524-1323

※ 今回は、会津地域の取り組みをご紹介します(在宅歯科医療連携室)

### 周術期口腔ケアの新しい取り組みについて

周術期の口腔ケアとは、入院している患者さんに対し、口腔清掃管理を行うことにより、合併症を軽減し、早期退院を目的として行うケアのことを言います。



#### 取り組みの背景

現在、福島県立医科大学会津医療センターでは、会津若松歯科医師会、耶麻歯科医師会と会津中央病院歯科口腔医療センターとの連携による歯科医師の派遣を受け、入院患者に対し口腔ケアを行う取り組みを平成30年5月より行っています。全身麻酔で手術を行なう場合、気管内挿管と言う肺の近くまで管を入れた人工呼吸を行います。その際、口腔内細菌による肺炎のリスクが高くなるため、術前術後を通して口腔環境を整える目的に、歯科医療専門職を中心とした口腔ケアの対応が必要になります。ところが、歯科が設置されている病院は全国で約2割しか無く、口腔ケアまで手が回らない病院も少なくありません。その場合、かかりつけ歯科医院と連携し周術期管理を行うこととなりますが、まだまだ医科歯科連携が十分な状況とは言えません。

#### 会津地域の取り組み

そこで、会津では、連携医療に関する委員会を歯科医師会内に立ち上げ、歯科の無い病院へ定期的に会員を派遣し、周術期管理を行う試みを始めました。その結果、医科歯科連携が推進され、口腔健康管理に対する認識は高まり、より充実した地域医療連携が実践されるようになりました。現在は、マンパワーの関係で全ての入院患者さんに対して実施できてはおりませんが、今後は本人やご家族の理解を得ながら、出来るだけ対応していきたいと考えております。



また、手術前後の口腔健康管理ばかりでは無く、がん化学療法中の方や緩和ケアへ移行した方に対しても口腔ケアは重要で、可能な限り対応しています。緩和ケアを受けている方は、全身状態の影響で免疫力が低下し、また栄養管理が経管になることも多く、口腔機能が低下し、ますます口腔内の衛生環境は悪化します。さらに、誤嚥のリスクが増し、誤嚥性肺炎のリスクも高まります。こういった患者さんに対し口腔ケアを継続し、粘膜痲痺や細菌塊をこまめに除去し口腔乾燥を防いだり、口腔粘膜や筋肉を刺激しマッサージすることで機能低下の抑制につながり、誤嚥性肺炎のリスクを低下させることが分かっています。

また、日頃健康な状態であっても、適切な口腔ケアの継続により口腔細菌叢の改善を図ることで、風邪やインフルエンザの罹患率が低下することは周知の事実で、新型コロナウイルス感染症の予防に関しても抑制効果があると言われています。

まだまだ重要性の認知度が低い口腔ケアですが、入浴、排便、摂食などの一般的な介助と同様に口腔ケアが行なわれるようになっていくことを願っています。

訪問歯科診療に関する相談や歯科との連携に関することは、在宅歯科医療連携室にご連絡ください。

※FAX不要の場合にはお手数でもご連絡をお願いいたします。